

第1回北海道ブロッククラブミーティング 2008 開催報告

日 時：平成20年6月29日（日）13:15～16:30

会 場：「北海道立総合体育センターきたえーる」講堂
（北海道・札幌市）

北海道札幌市において、第1回北海道ブロッククラブミーティングが開催された。参加者は、育成指定クラブ67名を含め合計78名であった。内容については、以下のとおりである。



○ 情報提供

山本理人班長のコーディネーターのもと、『地域スポーツの「にない」と「しくみ」～総合型地域スポーツクラブをめぐる諸条件～』をテーマに大沼義彦班員より情報提供された。

はじめに、スポーツクラブに携わるきっかけと、その設立した大学カヌークラブの活動内容等を紹介し、次に、北海道における総合型クラブ設立の特徴を説明し、スポーツにおける「にない」と「しくみ」について、人的・組織的側面、物的・空間的側面、財政的側面から特色ある取り組み事例を日体協作成のDVDに取り上げられた先進クラブを基に紹介された。また、なぜ中学校区をクラブ設立の活動範囲の目安となったかは、生活課題を解決する地域空間として適当な範囲と説明し、最後に総合型スポーツクラブ設立に苦勞されている出席者や関係者は地域を担う意識が高く、その評価される活動は20年後、30年後の地域とスポーツの姿を映し出しているとしてまとめられた。



○ シンポジウム

『総合型地域スポーツクラブの設立と運営～北海道の特性を生かして～』をテーマに、3人のシンポジストに、資料に基づき、各クラブの概要について発表いただき、その後、参加者との質疑応答となった。

シンポジスト： るもいスポーツクラブ「このゆびとまれ」 リーダー 伊端隆康氏（北海道地方企画班員）
総合型地域スポーツクラブ「Gen キングしらおい」 顧問 高橋克厚氏（ " ）
よりづか☆ちょいスポ倶楽部 事務局長 久保田智氏

※各クラブのクラブ概要については巻末参照

○ 質疑応答

参加者より質問用紙を提出していただき、課題を整理し、シンポジストと参加者で意見交換を行った。

Q 人材について（人材の確保、指導者の発掘、特殊種目への対応）

- ・ るもい 体指が必置義務廃止で全道で初めて委嘱が無くなり、体育協会もNPOを取得し社会体育事業も担当したため、スポーツクラブの指導者は自分を含めて、体育協会から派遣するのが基本になっている。
特殊な種目であるヨガの講師は道央のフィットネスクラブにお願いしている。1回の講師料は謝礼が10,000円に交通費（留萌まで大体10,000円）を併せて、20,000円を上限として支弁している。
- ・ しらおい クラブの役員で人伝に探す。1回の講師料は、2,000円から4,000円を基本。また、民間企業と連携し、例えば乗馬クラブでは、相場の半額で契約し、紹介料一人100円を乗馬クラブからいただき、事業に対してマイナスにならない方法を考える。
- ・ よりづか 有資格者は少なく、体指等に依頼するが、ジュニア種目はすべて久保田氏本人が担当。指導者を養成しているが、即戦力の期待薄い。また、特殊な種目は外部へ依頼する場合は8,000円（交通費込み、札幌近郊のため安く設定）を目安とする。

Q 既存スポーツ団体との関連について（スポーツ少年団、体育協会等）

- ・ よりづか スポーツ少年団・老人クラブ・スポーツサークル等と競合したが、それらは競技型で専門性が高く、スポーツクラブは体験型で大きな問題にはならなかった。また、クラブ員で競技力が高くなったり、競技性を求められたら、体協加盟団体への加入を勧めている。
- ・ しらおい 体育協会がクラブの創設を準備し、理念から住み分けを明確にしたので、問題は発生しなかった。体育協会は団体加盟であり、クラブは自分の意志での個人加盟だから競合しない。
- ・ るもい 体育協会は補助金分配団体であり、市民へのスポーツ振興事業は各加盟団体に任せられていたため、親組織として市民スポーツの振興策の一環としてクラブを設立した。今も体協や教委、スポ少とも良い関係が続いている。

Q 体協がNPO法人を取得した時の職員体制等の確認について

- ・ るもい それまで6人の体育課職員が最終的にNPOでは3人で施設管理から事業まで消化している。委託費50,000千円のうち半分は人件費が占める（退職金も考慮）。
- ・ よりづか 平日3時間（基本2,000円）の常勤者を置く。自身も夜が仕事で平日が空くため、クラブハウスに張り付きの状態だったが、今年はt o t oの助成でクラブマネジャーの賃金（月24,000円）を充てている。

Q 行政支援の言葉がある中で、我が町の教育委員会は一切協力が無いし、耳も傾けてくれない。どうすれば良いか。

- ・ しらおい 組織設立へのアプローチは行政からの依頼があっても、2年間の準備期間もなかなか理解や支援は得られなかった。設立後の支援にも時間を要した。息の長い行動が必要ではないか。

Q プログラムの設定及び広報等について

- ・ よりづか ニューススポーツの食いつきが良い。特にドッチピー（フリスビーの布製をボールにドッチボールを行う。慣れると2～3個を同時に入れる。
- ・ るもい 広報は見ない。ポスターも軽視。人伝、直接電話が効果高い。
- ・ しらおい 白老町は前述の広報の効果大。



Q クラブの拠点から遠方の方の参加工夫は。

- ・ しらおい 魅力あるプログラムを設定すれば、参加料が高くて、遠方からも集まる。

○ まとめ

人集めは難しいが、根気よく進めることが重要であり、自分が参加して楽しい行事の計画をしていきましょう。今でもクラブ設立が地域に成果として評価があるか疑問であるが、今後の地域スポーツ振興策の一助になると思う。北海道の特色を生かし、自分たちの身の丈にあった総合型地域スポーツクラブの設立を目指していきましょうと、山本班長よりまとめられた。

(報告：北海道ブロック地方企画班員 足立 直人)

るもいスポーツクラブの概要

2008年6月29日(日)

名 称	<p>るもいスポーツクラブ「このゆびとまれ」</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ シンプルに留萌の名を冠し、親しみやすく、ひらがなにした
特 徴	<ul style="list-style-type: none"> ・ NPO法人留萌体育協会が主体的に運営(NPOのミッションと連動) ・ 文武両道として「読み書き計算」 ・ 健康都市宣言に呼応した健康づくり関連事業を実施 ・ 留萌市のスポーツ実施率の目標は70%(H19調査で60%だったため) ・ H20年度は、文部科学省モデル事業で「女性のスポーツ参加機会の向上」を目指す
理 念	<ul style="list-style-type: none"> ・ だれもが気軽にスポーツを楽しめる環境づくりを推進し、さまざまなスポーツ活動を通じて、元気で健康な連帯感あふれるまちづくりに寄与する
設立経緯	<ul style="list-style-type: none"> ・ 道体協の熱い勧誘でH17～18年に育成指定クラブとなり、H19年3月に設立
主な事業	<p><教室></p> <ul style="list-style-type: none"> ・ ジュニアクラブ(小学生) ・ いきいきクラブ(高齢者) ・ シャイプアップ・ヨガ(主に主婦) ・ リフレッシュクラブ(社会人) ・ ウォーキングクラブ(一般) ・ ソフトエアロビクス(主に主婦) <p><イベント・大会></p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 市民登山会 ・ マラソン大会 ・ パークゴルフ大会 ・ 大遠足(ウォーキング)
会 員 数	<ul style="list-style-type: none"> ・ 244人(6月27日現在)
場 所	<ul style="list-style-type: none"> ・ スポーツセンター、パークゴルフ場、
体 制	<ul style="list-style-type: none"> ・ 運営はすべて体協(体協の一事業)
運 営	<p><財源></p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 現在は会費と助成金(不足したときは体協から繰出す) <p><人材確保></p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 指導は体協の指導員と職員(体育指導員はH18に廃止) ・ 事業の増加に併せた指導者の確保が課題 <p><既存団体との連携></p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 体協加盟団体との関係は良好 <p><行政との関係></p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 市(健康推進)、市立病院、女性団体などとネットワーク ・ 指定管理者として行政(市教委)との関係は良好
会 員	<ul style="list-style-type: none"> ・ クラブ事業の受講者と参加者 ・ スポーツクラブの趣旨に賛同する個人、団体
会 費	<ul style="list-style-type: none"> ・ 一般2,000円、高齢者1,000円、児童生徒1,000円(保険料含む) ・ 教室受講料は内容、日数に応じ2,500円～4,000円
予 算	<ul style="list-style-type: none"> ・ 予算規模 … 170万円 ・ 主な収入 … 会費50万円、委託料40万円、toto助成80万円など ・ 主な支出 … 謝金80万円、保険30万円、教材費など60万円
特 典	<ul style="list-style-type: none"> ・ 会員証の押印数により①温泉半額券②市内バス乗車券③スポーツセンター1回無料 ・ 市立病院の「ミニ健診」と「スポンサー連動サービス」それぞれ検討中

Genキングしらおいクラブ概要

1 クラブの概要

クラブの理念目的	地域住民の自主運営による生涯スポーツの推進拠点として、誰でも何時でも何でも気軽に楽しめる地域に密着したスポーツ文化活動を通して、地域社会全体の活性化を目指す。【町づくり】
設立の経緯	きっかけは、行政から体育協会へのクラブ設立を検討する呼び掛けに始まる。白老町体育協会事務局長が準備委員会委員長。更にクラブ設立後クラブ事務局長として体協とクラブの調整を図る。
クラブの体制	クラブ規約の下に、月一度の理事会開催。当月の活動プログラムの決定をすると共に、事務局の動きや会員の参加状況の報告・確認をして情勢の共有を図る。クラブ事務局公民館の一室。ハウスなし。会員数：160名（設立初年度実績145名…平成18年度）
活動内容	プログラムを…教室・サークル・スクール・イベントの4種類として毎月検討し、活動日・時間・場所・講師・参加料などを毎月発行の会報を通して会員への周知を図る。また、町民へ広報折り込みとしてクラブ会報を発信。

2 クラブの運営

財源の確保	入会金・年会費（特別徴収費含む）・基金・事業収益金など。安定した運営を図るには、イベント企画は欠かせない。教室参加者の受講料も大きい。
人材の確保	講師・指導者は良き理解者に助けられられ、安定した状況にある。役員も会員として相互協力できている。が、事務局長はじめ局員の確保が大変である。
既存団体との連携	体育協会をはじめ各団体とは、活動場所・指導者等調整に特別問題はない。
行政との連携	①活動場所の減免団体に認定 ②事務局事務所の無償貸与 ③職員の協力を理解 ④会報の無料配布へ自治会協力 など、助成金はないが活動に理解がある。行政事業への参加協力を会員に呼び掛け、当日の運営協力も時にする。
現状と課題	会員は、好きなどころへ行って楽しく活動している。輪が少しずつ広がりを見せ、クラブは所期の目的に確実に向かっている。今後近々突き当たる課題として、事務局員の手当て・クラブハウスの確保がある。
その他	クラブ存在の周知度が年々高まっている。会員の活動が即良い情報となって広がりを見せていることが事務局への問い合わせで確認できる。理解ある活動者を増やすことが、何より大切である。そのために何をすべきか、永遠の課題として皆で考えて行きたい。それがまた『町づくり』。

よりづか☆ちよいスポ倶楽部の概要

名称 : よりづか☆ちよいスポ倶楽部
所在地 : 〒061-1273 北広島市大曲柏葉5丁目11番地5 四里塚会館内
電話&FAX : 011-376-3497 電子メール : yoriduka-c_s-club@triton.ocn.ne.jp
代表者 : クラブマネジャー 久保田 智
役員 : 理事長1名 副理事長1名 監事1名 理事7名 顧問4名
職員 : クラブマネジャー1名 アシスタントマネジャー(会計担当)1名
利用会員数 : 77名 (6/16現在)
実施種目 : タグラグビー、ラグビー、バドミントン、ミニバレー、ソフトテニス、ドッチビー
スポーツチャンバラ、ウォーキング、バスケットボール、各種ニュースポーツ
活動場所 : 四里塚会館(クラブハウス)、大曲小学校体育館及びグラウンド
大曲中学校体育館、大曲公民館、道都大学ラグビー場

設立年月日 : 2008年2月29日

設立の経緯 :

2005年1月 : 四里塚振興町内会総会にて総合型地域スポーツクラブ設立に向けて趣意説明

2005年6月 : 総合型地域スポーツクラブを作る会主催「初めてのタグラグビー教室」開催

2005年10月 : 四里塚振興町内会にて「総合型クラブの説明会」実施

2006年1月 : 北広島市教育委員会など関係団体へ支援依頼、承諾

2006年3月 : 文部科学省委託事業へ申請、承諾され町内会へ報告

2006年4月 : 四里塚総合型地域スポーツクラブ(仮称)設立準備委員会開催

2006年5月 : 文部科学省委託事業新規クラブ事業スタート「タグラグビーチーム大曲 C-CLUB」活動開始

2007年5月 : 文部科学省委託事業継続クラブとして2年目スタート

2007年11月 : 夢プラザにて「総合型クラブ啓発講演会」実施

2008年1月27日 : 四里塚振興町内会総会にて会館のクラブハウス使用承認

2008年2月29日 : 「よりづか☆ちよいスポ倶楽部」設立総会実施

2008年3月 : 北広島市初の総合型地域スポーツクラブとしてスタート

クラブのミッション :

① 子供たちが健やかに育つ環境 ② 住民が健康であり続ける環境 ③ 住民一人ひとりの顔が見える環境、この3点実現に向け、スポーツ振興・文化活動を通して多くの人が集まり、参加できる環境づくりをすることで、地域の想像と創造を組み合わせ、地域教育力の向上につながる活動を推進し、元気で健康な連帯感あふれる地域づくりに寄与することを目的とする。

住民一人ひとりが「今来た道」「これから行く道」を考えることが夢のある地域づくりを実現し、夢のある子供を育てる第一歩だと考えます。

地域を成長させるのは、地域住民の力であり、その担い手となるのが総合型地域スポーツクラブとしての役割です。そのために各種スポーツ、文化活動の情報発信としての確立を図りたい。